

一 告 白

KIT
キャンパス
レポート
文・出島二郎
マーケティングプランナー



中村佳菜子(なかもり かほこ)
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程一年
山口県立徳山高等学校出身

教育と研究に結びつく 充実した課外活動に魅かれて。

って、やりたいことをサポートしてくれませんか。むしろ、課外活動ができたこと。夢考房ジュニアと農業支援機器開発プロジェクトです。研究テーマは、学部からの継続で『発達障害児のための学習支援ロボットの開発』です。これには中学校の教師をしている母の影響を受けました。それに、小さいころから発達障害の子供とお手紙交換

近隣の工業系大学から金沢工大へと進路を変えたのは、夢考房などのプロジェクトが活発なことであつた。受験校なので、両親は国立を勧めたけれど、ロボットに公立を勧めたけれど、ロボットにかかわる部活動に入りたい意志が強かつた。そしてスカラシップフェローという奨学金をもらった。「来て良かったと痛感していますね。先生たちがすごく親身にな

をしていたことも。」

指導教授の竹井義法先生の専門は、化学センサシステムとその応用、システム同定。学生の自主的な活動を大事にされる。中村さんが参加した二つの課外活動の指導メンバーでもあり、研究室は学部生が十四名、院生が十名の大所帯。竹井先生の信頼度がわかる。

「夢考房ジュニアは、地域の子供たちに向けてロボットやITプログラミングに関する活動を行うプロジェクト。未来のグローバル・イノベーターを輩出することが最終目標です。農業支援の方は、農家の持っている問題を発見し、それを解決するためのロボットや機器を作ること。主には小型合鴨ロボットですが、アシストスーツや自立走行の草刈り機や水田の温度を測るセンサなどもあります。」

は揺れた。でも、四年間で培った技術でそのまま会社に行けるのかという不安と、自分の研究がここで終わって納得できるのかと。「私の研究は、用いる要素技術自体はさまざまなのでされているので、それらの技術を組み合わせ、発達障害児を支援する仕組みやロボットをいかに作り上げるかということ。ロボットに関する学会や、心理系の先生にも協力いただいているので、提案するロボットを活用した効果についても発表できるといいかなと、準備を進めているところですよ。」

中村さんは「機械を見ると、ときめくんですよ」と弾む声で話す。インターンシップでも、楽しい日々を創造していかだろ。ターゲットは大企業の技術職というが、私には自然な気がしたのである。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘七二一
電話番号(076)2481100